

東北新報

本報創刊二十二年
社址：青森県青森市
電話：二二二
印刷所：青森印刷局
印刷：青森印刷局

社説

民政派石城部會の闘士がそれ／＼特色をもつてゐるのであるが、殊に野崎氏はかみそりの様な鋭い切れ味をみせてゐる。政治的闘士としては見上げた手腕の人である。この人のグループが凡てこれの爲めにいろ／＼の意味に於て、部會内において優越を感じてゐるであらうし、獨裁的な傾向を有してゐるであらうことも當然たるべき結果であらう。ごまかすも近代的政治者流のやり方であることが高手を振ふことにもなるであらう。

し、事實上では對向以上の暗闘があるのではないかと見られてゐる。若松縣議は公平無私を本願とするばかりでなく常に政治道徳の中に自己を活かそうとする、政界稀にみる人格者である。賣名的な自己宣傳をするやうな人ではなし、陰にかくて黙々として義務を遂行するに忠實な信念の人である。

民政石城部會の二大潮流がいつまでもこの儘にして無風帯であるであらうか、どうかは部内も不安に驅られてゐる者も尠ないことであらう。同志が、黨中に黨をつくるが如きことは不合理であるとしても、兩派の行きつく所が混然とした融和でなくして、分離であるとし、背逆であるとしたならば當然の歸結としてやむを得ざるであらうし、防がれぬ混亂の終りであらうし、分解作用でもあらう。

若松派中の強こうなる黨人氣質を所有してゐる萩原氏が現在の民政部會内の浄化運動を捲き起さざればやまぬと、頑固な主張をしてゐるとさへ傳へられてゐるから早晩に下場だけでも可成り多くあつてゐるのが、不良黨員の頭上に落下する鐵槌であるであらうことは、今日となりては時間の問題のみが残されてゐるにすぎない状態におかれてゐるのである。

民政部會内の急進派と正義派とが、この問題で正面の衝突をするのか地方かと言ふことであるが平保線區でもこれには非常な頭を悩まして

炎天下の風寒

物こそずくに働く
線路工事さんに
愈々十月一日から
小倉服を支給さる
法被は時代遅れ……
或は炎天下に乃るが然し結局は平素の成至は寒風にさらされ續く勤勞年限等によつて雇され乍ら二六時中オートメーン昇格せしめる事になる。チヨンダのかけ聲いさまであらうと職員の噂さでしく働く鐵道の線路工事にある。

舟中鮭新

植田町地
先鮭川の
鮭は目下
豊漁で味
も亦佳良
なる處か
つ、あり錦村鮭川鮭繁殖
組合もちく年孵化数を増
加してゐる有様で相馬郡
仁井田川につぐ鮭漁地ト
して常盤線一帯に聲價を
高め遠近より舟遊び旁々
鮭漁の見物多く活況を呈
五日前午前十時頃死亡したの者であり例へ弟の葬式でも

最高幹部會

昨日大村屋で
政友會石城部會では二十七
日午後四時から平町三丁目
歸す譯にはいかなないヨ
新田町竹の家の因強に
藝妓の親達平署へ説諭願

愈々近づいた

狩獵解禁の楽しい日
今年キジ、山鳥、鴨
の類が非常に多く繁殖
に海に心地好い反響
を殘して打ち出される銃
の音、雉の如き獵犬が矢
のやうな追跡等がまつた
く一種映画のシーンとな
つて此の興味をそゝるに
違ひない

平稅務署の

新財源
無届移動地調査で
平稅務署では山林原野を無
届けて異動してゐる土地一
萬五千筆を調査の結果發見
したので目下夫々所有者か
ら申告せしめてゐるが二十
五日までに約八千筆の届申
であり十月初旬から翌員
四組に分ち石城郡内各町村
にわたり土地検査を行ひ異
動地の新地價を設定する事
となつた明年度からは新地
價を以て香租賦課し得るお
ら年々數千圓の新財源を得
ることにならうと

歸す譯にはいかなないヨ

新田町竹の家の因強に
藝妓の親達平署へ説諭願

非常な

頭を悩まして

非常な

頭を悩まして

非常な

頭を悩まして

2x9=3x2x3
タマチ
フ
高値 八〇、〇〇〇
安値 六六、〇〇〇
買馴 七三、六〇〇
蕪市況
四倉蕪市場に於ける廿九日
の取引状況及び取引買数は
八百三十六貫で取引高は左
の如し

